

目次

総合生命理学部

＜総合生命理学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	24
4. 既設大学等の状況	26
5. 教員組織の状況	29
6. 附帯事項等に対する履行状況等	56
7. その他全般的事項	58

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人名古屋市立大学

(2) 大学名

名古屋市立大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
〒467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地
(〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コオリ ケンジロウ) 郡 健二郎 (平成30年4月)		
学長	(コオリ ケンジロウ) 郡 健二郎 (平成30年4月)		
学部長	(ユカワ ヤスシ) 湯川 泰 (平成30年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
総合生命理学部 総合生命理学科 学士(理学)	理学関係	4年	43人	年次 人 -	164人	(変更前入学定員 41人) (変更前收容定員 161人) (変更年月 令和2年4月) (報告年度 平成31年度)

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 (-) [-]		41 (-) [-]		43 (-) [-]				1.07倍	-	
志願者数	165 (-) [-]		208 (-) [-]		263 (-) [-]						
受験者数	92 (-) [-]		120 (-) [-]		147 (-) [-]						
合格者数	46 (-) [-]		58 (-) [-]		62 (-) [-]						
B 入学者数	40 (-) [-]		43 (-) [-]		51 (-) [-]						
入学定員超過率 B/A	1.00		1.04		1.18						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	40 [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)	51 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		37 [-] (-)	- [-] (-)	46 [-] (3) (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		33 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	40 [-] (-)		80 [-] (-)		130 [-] (3) (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	40 人	3 人	平成30年度	3 人	0 人	進路変更(3名)
令和元年度	80 人	1 人	平成30年度	1 人	0 人	就職(1名)
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	130 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
合 計		4 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{40} = \boxed{7.5} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{80} = \boxed{1.25} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{130} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学特色科目	社会人になるA	1前		2							1
	社会人になるB	1後		2							1
	現代社会と人と地域のつながり	1前		2							1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前		2							1
	ESDと地域の環境	1後		2							1
	小計(5科目)	-		10							4
現代社会の諸相	なぜ憲法が必要なのか	1前		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	法学入門	1後		2							1
	経済学:経済学の 考え方	1前		2							1
	経営学:企業活動 の諸相	1後		2							1
	社会学A	1後		2							2
	社会学B	1後		2							1
	平和論	1後		2							4
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方 自治	1前		2							1
	国際政治と社会	1前		2							1
	小計(10科目)	-		20							13

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学特色科目	社会人になるA	1 1T・ 2T		2							1
	社会人になるB	1後		2							1
	現代社会と人と地域のつながり	1後		2							1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前		2							1
	ESDと地域の環境	1後		2							1
	まちづくり論	1前		1							1
	次世代エネルギー ワークショップ	1後		2							1
	小計(7科目)	-		13							6
現代社会の諸相	なぜ憲法が必要なのか	1前		2							1
	日本国憲法	1前 -後		2							1
	法学入門(未開 講)	1後		2							1
	経済学:経済学の 考え方	1前		2							1
	経営学:企業活動 の諸相	1後		2							1
	社会学A	1後		2							2
	社会学B	1後		2							1
	平和論	1後		2							3
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方 自治	1前		2							1
	国際政治と社会	1前		2							2
	人と法と医療	1前		2							2
	社会学C	1後		2							1
	社会環境論	1前		2							1
	フィールド研究か らみるアジア	1前		2							4
	小計(14科目)	-		28							20

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1前		2							1
	囲碁に学ぶ	1後		2							1
	死の文化学	1後		2							1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後		2							1
	文化に見る歴史	1前		2							2
	欧州史の中の北欧史	1後		2							1
	アメリカ史入門	1前		2							1
	都市と地域構造の地理学	1前		2							1
	音楽と文化	1前		2							1
	自分とみんなで考える哲学	1前		2							1
	討論の中で問題を発見する哲学	1後		2							1
	応用倫理学－生命倫理の現在	1前		2							1
	宗教学入門	1後		2							1
	心理学概論	1後		2							1
	心理学入門	1後		2							1
	現代教育の諸相	1前		2							2
	次世代育成と地域の課題	1後		2							2
小計 (17科目)	-		34							20	
人間と自然	科学史	1後		2							1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前		2							1
	小計 (2科目)	-		4							2
自然と数理の探求	行動生態学	1前		2			1				
	植物とバイオテクノロジー	1前		2		1					
	バイオサイエンス入門	1後		2		1	1				
	小計 (3科目)	-		6		2	2				

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1後		2							1
	囲碁に学ぶ	1後		2							1
	死の文化学(未開講)	1後		2							1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後		2							1
	文化に見る歴史	1前		2							2
	欧州史の中の北欧史	1後		2							1
	アメリカ史入門	1前		2							1
	都市と地域構造の地理学	1前		2							1
	音楽と文化	1前		2							1
	自分とみんなで考える哲学	1前		2							1
	討論の中で問題を発見する哲学	1前		2							1
	応用倫理学－生命倫理の現在	1前		2							1
	宗教学入門	1後		2							1
	心理学概論	1後		2							1
	心理学入門	1後		2							1
	現代教育の諸相	1前		2							2
	次世代育成と地域の課題	1後		2							2
日本文化の理解	1前		2							1	
日本語コミュニケーション	1後		2							1	
人間と表現	1前		2							2	
小計 (20科目)	-		40							24	
人間と自然	科学史	1後		2							1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前		2							1
	行動生態学	1前		2			1				
小計 (3科目)	-		6			1				2	
自然と数理の探求	植物とバイオテクノロジー	1前		2		1					
	バイオサイエンス入門	1後		2		2	1				
	小計 (2科目)	-		4		3	1				

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	IS: Community	1前後	1								1
	IS: Social Justice	1前後	1								1
	IS: Life & Work	1前後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前後	1								1
	IS: The Arts	1前後	1								1
	AE: Make a Difference in Your Community	1前後	2								1
	AE: Interact Internationally	1前後	2								1
	AE: Improve Life Skills	1前後	2								1
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前後	2								1
	CS: Presentation	1前後	2								4
	CS: Grammar and Usage	1前後	2								2
	EM: World News	1前後	2								1
	EM: Popular Culture	1前後	2								1
	EM: Reading for Inspiration	1前後	2								3
	EM: Online Articles and Videos	1前後	2								1
小計(16科目)	-		27								11

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	IS: Community	1前後	1								1
	IS: Social Justice	1前後	1								2
	IS: Life & Work	1前後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前後	1								1
	IS: The Arts	1前後	1								2
	AE: Make a Difference in Your Community	1前後	2								1
	AE: Interact Internationally	1前後	2								2
	AE: Improve Life Skills	1前後	2								2
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前後	2								1
	CS: Presentation	1前後	2								6
	CS: Grammar and Usage	1前後	2								4
	EM: World News	1前後	2								4
	EM: Popular Culture	1前後	2								4
	EM: Reading for Inspiration	1前後	2								6
	EM: Online Articles and Videos	1前後	2								5
	CS: TOEIC Preparation	1前後	2								3
小計(17科目)	-		29								29

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
その他の言語	ドイツ語初級1	1前		2							1
	ドイツ語初級2	1後		2							1
	フランス語初級1	1前		2							1
	フランス語初級2	1後		2							1
	中国語初級1	1前		2							1
	中国語初級2	1後		2							1
	小計(6科目)			12							3
情報科目	情報処理基礎	1前	2			1					
	情報処理応用	1後	2			1					
	小計(2科目)	-	4			1					
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2			1		1			5
	健康・スポーツ実技	1後		1							1
	小計(2科目)	-	2		1	1		1			6
生物学	基礎生物学	1前	2			1					
	生物学	1後	2				1				
	小計(2科目)	-	4			1	1				
化学	化学基礎	1前		2			1				
	化学熱力学基礎	1前		2		1					
	有機化学	1後		2		1					
	小計(3科目)	-		6		2	1				

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
その他の言語	ドイツ語初級1	1前・後		2								6
	ドイツ語初級2	1後		2								5
	フランス語初級1	1前・後		2								4
	フランス語初級2	1後		2								3
	中国語初級1	1前・後		2								6
	中国語初級2	1後		2								5
	韓国語初級1	1前・後		2								2
	韓国語初級2	1後		2								2
	スペイン語初級1	1前・後		2								2
	スペイン語初級2	1後		2								2
	日本手話初級1	1前・後		2								2
	日本手話初級2	1後		2								2
	ポルトガル語入門	1後		2								1
	ロシア語入門	1前		2								1
	イタリア語入門	1後		2								1
	アラビア語入門	1前		2								1
	小計(16科目)			32								26
情報科目	情報処理基礎	1前	2				1					
	情報処理応用	1後	2				1					
	小計(2科目)	-	4				1					
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2			1		1				4
	健康・スポーツ実技	1後		1								1
	小計(2科目)	-	2		1	1		1				5
生物学	基礎生物学	1前	2			1						
	生物学	1後	2				1					
	小計(2科目)	-	4			1	1					
化学	化学基礎	1前		2			1					
	化学熱力学基礎	1前		2		1						
	有機化学	1後		2		1						
	小計(3科目)	-		6		2	1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物理学	物理学基礎	1前		2		1						
	力学	1前		2			1					
	電磁気学	1後		2			1					
	波動・熱力学	1後		2			1					
	小計(4科目)	-		8		1	2					
数学・統計学	微分積分学	1前	2			1	1					
	線形代数学I	1前	2			1	1					
	線形代数学II	1後		2		2						
	統計学B	1後		2		1						
	小計(4科目)	-	4	4		3	1					
自然科学実験	自然科学実験	1後	1			5	8					
	小計(1科目)	-	1			5	8					
専門基礎科目	総合理学概論A	1後	2			5	4	1				
	総合理学概論B	1後	2			5	6					
	総合理学実験入門	1前	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		3	2	1				
	物質科学実験	2前		2		2	4					
	生態学	2後		2			1					
	基礎生理学	2前		2		1						
	適応生理学	2前		2		1						1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2後		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
	生化学	2前		2			1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物理学	物理学基礎	1前		2		1						
	力学	1前		2			1					
	電磁気学	1後		2			1					
	波動・熱力学	1後		2			1					
	小計(4科目)	-		8		2	1					
数学・統計学	微分積分学	1前・後	2			1	1					
	線形代数学I	1前	2			1	1					
	線形代数学II	1後		2		2						
	統計学B	1後		2		1						
	小計(4科目)	-	4	4		3	1					
自然科学実験	自然科学実験	1後	1			7	7					
	小計(1科目)	-	1			7	7					
専門基礎科目	総合理学概論A	1通	2			6	5					
	総合理学概論B	1通	2			6	5					
	総合理学実験入門	1通	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		4	3					
	物質科学実験	2前		2		3	3					
	生態学	2後		2			1					
	基礎生理学	2前		2		1	1					
	適応生理学	2前		2								1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2前		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
	生化学	2前		2			1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	分子生理学	2後		2				1				
	細胞生物学	2後		2		1						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2前		2			1					
	有機元素化学	2後		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2								1
	プログラミング I	2後		2			1		1			
	情報処理発展	2前	2				1		1			
小計(24科目)			7	40		10	10	1	1			3
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1		1				
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2			1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								7
	生命科学各論	4前		1								1
小計(15科目)	-		29		4	4	1					15

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	分子生理学	2後		2				1				
	細胞生物学	2後		2		1						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2後		2			1					
	有機元素化学	2前		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2								1
	プログラミング I	2後		2			1		1			
	情報処理発展	2前	2				1		1			
小計(24科目)			7	40		12	10		1			3
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1		1				
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2			1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								10
	生命科学各論	4前		1								1
小計(15科目)	-		29		5	5						18

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		1	1					
	量子力学	2後		2			2					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2			2					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)			11		2	4					1
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)	-		11		3	1		1			2
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			10	9	1				
	専門演習Ⅰ	3後	2			10	9	1				
	専門演習Ⅱ	4前	2			10	9	1				
	専門演習Ⅲ	4後	2			10	9	1				
	卒業研究Ⅰ	3後	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅱ	4前	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅲ	4後	4			10	9	1				
	小計(7科目)	-	21			10	9	1				
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
	小計(2科目)		4									1

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		2	1					
	量子力学	2後		2		1	1					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2		1	1					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)			11		3	3					1
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)	-		11		3	1		1			2
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			12	10					
	専門演習Ⅰ	3後	2			12	10					
	専門演習Ⅱ	4前	2			12	10					
	専門演習Ⅲ	4後	2			12	10					
	卒業研究Ⅰ	3後	4			12	10					
	卒業研究Ⅱ	4前	4			12	10					
	卒業研究Ⅲ	4後	4			12	10					
	小計(7科目)	-	21			12	10					
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
	小計(2科目)		4									1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門関連科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2後			2							1
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2前			2							1
	教育内容論1(教育課程論)	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動論	2後			2							1
	教育方法論2	3後			2							1
	生徒・進路指導論	2前			2							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
	教職実践演習	4後			2	1						1
小計(15科目)			2	29	2						17	
合計(152科目)	-	47	224	30	10	10	1	1	0		89	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】・以下の(1)、(2)の要件を満たし124単位以上を修得すること。
 (1) 教養教育科目：共通科目から24単位以上(「大学特色科目」から2単位、「現代社会の諸相」及び「文化と人間性の探求」から4単位を含めて一般教養科目全体から8単位以上、外国語科目において「英語」から6単位以上、「その他の言語」から4単位以上、「情報科目」4単位、「健康・スポーツ科目」から2単位以上を含む)、基礎科目から「基礎生物学」及び「生物学」並びに「自然科学実験」を含めて21単位以上を修得すること。
 (2) 専門教育科目：必修科目32単位、選択科目47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))
 【進級要件】・2年次終了時において、以下の[1]～[4]の要件の一つでも満たしていない者は3年次に進級できない。
 [1] 教養教育科目における修得必要単位45単位の全てを修得していること。
 [2] 「総合理学概論A」2単位及び「総合理学概論B」2単位並びに「総合理学実験入門」1単位を修得していること。
 [3] 「生命科学実験」2単位及び「物質科学実験」2単位から2単位以上を修得していること。
 [4] [2]、[3]を含めて専門教育科目から25単位以上を修得していること。
 ・3年次終了時において、「専門演習Ⅰ」2単位及び「卒業研究Ⅰ」4単位を合わせて6単位を修得していない者は、4年次に進級することができない。

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門関連科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2前			2							3
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2後			2							1
	教育課程論	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後			2							1
	教育方法論2	3前			2							1
	生徒・進路指導論	2前			3							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
	教職実践演習	4後			2	1						1
特別支援教育2	2後			2							1	
小計(16科目)			2	32	2						20	
合計(173科目)	-	47	263	33	12	10	0	1	0		145	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】・以下の(1)、(2)の要件を満たし124単位以上を修得すること。
 (1) 教養教育科目：共通科目から24単位以上(「大学特色科目」から2単位、「現代社会の諸相」及び「文化と人間性の探求」から4単位を含めて一般教養科目全体から8単位以上、外国語科目において「英語」から6単位以上、「その他の言語」から4単位以上、「情報科目」4単位、「健康・スポーツ科目」から2単位以上を含む)、基礎科目から「基礎生物学」及び「生物学」並びに「自然科学実験」を含めて21単位以上を修得すること。
 (2) 専門教育科目：必修科目32単位、選択科目47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))
 【進級要件】・2年次終了時において、以下の[1]～[4]の要件の一つでも満たしていない者は3年次に進級できない。
 [1] 教養教育科目における修得必要単位45単位の全てを修得していること。
 [2] 「総合理学概論A」2単位及び「総合理学概論B」2単位並びに「総合理学実験入門」1単位を修得していること。
 [3] 「生命科学実験」2単位及び「物質科学実験」2単位から2単位以上を修得していること。
 [4] [2]、[3]を含めて専門教育科目から25単位以上を修得していること。
 ・3年次終了時において、「専門演習Ⅰ」2単位及び「卒業研究Ⅰ」4単位を合わせて6単位を修得していない者は、4年次に進級することができない。
【他学部の授業科目について】
 他学部のうち、薬学部で開講する以下の科目に限り、履修を認める。修得した単位は、6単位まで専門科目の単位に算入することができる。
 ・「機能形態学Ⅰ」2単位 配当年次：1年 後期
 ・「機能形態学Ⅱ」2単位 配当年次：2年 前期
 ・「薬学物理化学Ⅲ」2単位 配当年次：2年 後期
 ・「衛生化学」2単位 配当年次：3年 前期
 ・「バイオインフォマティクス」1単位 配当年次：3年 後期
 ・「ケミカルバイオロジー」1単位 配当年次：3年 後期

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学 特色 科目	社会人になるA	1前		2							1
	社会人になるB	1後		2							1
	現代社会と人と地域のつながり	1前		2							1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前		2							1
	ESDと地域の環境	1後		2							1
	小計(5科目)	-		10							4
現代 社会 の 諸 相	なぜ憲法が必要なのか	1前		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	法学入門	1後		2							1
	経済学:経済学の 考え方	1前		2							1
	経営学:企業活動 の諸相	1後		2							1
	社会学A	1後		2							2
	社会学B	1後		2							1
	平和論	1後		2							3
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方 自治	1前		2							1
	国際政治と社会	1前		2							2
	小計(10科目)	-		20							12

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学 特色 科目	社会人になるA	1前		2							1
	社会人になるB	1後		2							1
	現代社会と人と地域のつながり	1前		2							1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前		2							1
	ESDと地域の環境	1後		2							1
	まちづくり論	1前		1							
	小計(6科目)	-		11							5
現代 社会 の 諸 相	なぜ憲法が必要なのか	1前		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	法学入門	1後		2							1
	経済学:経済学の 考え方	1前		2							1
	経営学:企業活動 の諸相	1後		2							1
	社会学A	1後		2							2
	社会学B	1後		2							1
	平和論	1後		2							3
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方 自治	1前		2							1
	国際政治と社会	1前		2							2
人と法と医療	1前		2							2	
社会学C	1後		2							1	
社会環境論	1前		2							1	
フィールド研究か らみるアジア	1前		2							4	
	小計(14科目)	-		28							20

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1前	2								1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	死の文化学	1後	2								1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後	2								1
	文化に見る歴史	1前	2								2
	欧州史の中の北欧史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前	2								1
	都市と地域構造の地理学	1前	2								1
	音楽と文化	1前	2								1
	自分とみんなで考える哲学	1前	2								1
	討論の中で問題を発見する哲学	1後	2								1
	応用倫理学－生命倫理の現在	1前	2								1
	宗教学入門	1前	2								1
	心理学概論	1後	2								1
	心理学入門	1後	2								1
	現代教育の諸相	1前	2								2
	次世代育成と地域の課題	1後	2								2
小計 (17科目)	-		34								20
人間と自然	科学史	1後	2								1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前	2								1
	行動生態学	1前	2			1					
小計 (3科目)	-		6		1						2
自然と数理の探求	植物とバイオテクノロジー	1前	2		1						
	バイオサイエンス入門	1後	2		2	1					
	小計 (2科目)	-		4	3	1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	琉球・沖縄の歴史・文化を識る	1前	2								1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	死の文化学	1後	2								1
	東ヨーロッパの文化と歴史	1後	2								1
	文化に見る歴史	1前	2								2
	欧州史の中の北欧史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前	2								1
	都市と地域構造の地理学	1前	2								1
	音楽と文化	1前	2								1
	自分とみんなで考える哲学	1前	2								1
	討論の中で問題を発見する哲学	1後	2								1
	応用倫理学－生命倫理の現在	1前	2								1
	宗教学入門	1後	2								1
	心理学概論		2								1
	心理学入門	1後	2								1
	現代教育の諸相	1前	2								2
	次世代育成と地域の課題	1後	2								2
日本文化の理解	1前	2								1	
日本語コミュニケーション	1後	2								1	
人間と表現	1前	2								2	
小計 (20科目)	-		40								24
人間と自然	科学史	1後	2								1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前	2								1
	行動生態学	1前	2			1					
小計 (3科目)	-		6		1						2
自然と数理の探求	植物とバイオテクノロジー	1前	2		1						
	バイオサイエンス入門	1後	2		2	1					
	小計 (2科目)	-		4	3	1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	IS: Community	1前後	1								1
	IS: Social Justice	1前後	1								2
	IS: Life & Work	1前後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前後	1								1
	IS: The Arts	1前後	1								2
	AE: Make a Difference in Your Community	1前後	2								1
	AE: Interact Internationally	1前後	2								1
	AE: Improve Life Skills	1前後	2								2
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前後	2								2
	CS: Presentation	1前後	2								6
	CS: Grammar and Usage	1前後	2								3
	EM: World News	1前後	2								4
	EM: Popular Culture	1前後	2								5
	EM: Reading for Inspiration	1前後	2								5
	EM: Online Articles and Videos	1前後	2								5
小計(16科目)	-	-	27								27

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	IS: Community	1前後	1								1
	IS: Social Justice	1前後	1								2
	IS: Life & Work	1前後	1								1
	IS: Health & Well-being	1前後	1								1
	IS: The Arts	1前後	1								2
	AE: Make a Difference in Your Community	1前後	2								1
	AE: Interact Internationally	1前後	2								2
	AE: Improve Life Skills	1前後	2								2
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前後	2								1
	AE: Produce a Movie	1前後	2								1
	CS: Presentation	1前後	2								6
	CS: Grammar and Usage	1前後	2								4
	EM: World News	1前後	2								4
	EM: Popular Culture	1前後	2								4
	EM: Reading for Inspiration	1前後	2								5
	EM: Online Articles and Videos	1前後	2								5
	CS: TOEIC Preparation	1前後	2								3
小計(17科目)	-	-	29								28

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
その他の言語	ドイツ語初級1	1前		2							1
	ドイツ語初級2	1後		2							1
	フランス語初級1	1前		2							1
	フランス語初級2	1後		2							1
	中国語初級1	1前		2							1
	中国語初級2	1後		2							1
	小計(6科目)	-		12							
情報科目	情報処理基礎	1前	2				1				
	情報処理応用	1後	2				1				
	小計(2科目)	-	4				1				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2			1		1			4
	健康・スポーツ実技	1後		1							1
	小計(2科目)	-	2		1	1		1			5
生物学	基礎生物学	1前	2			1					
	生物学	1後	2				1				
	小計(2科目)	-	4			1	1				
化学	化学基礎	1前		2			1				
	化学熱力学基礎	1前		2		1					
	有機化学	1後		2		1					
	小計(3科目)	-		6		2	1				

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
その他の言語	ドイツ語初級1	1前・後		2								5
	ドイツ語初級2	1後		2								5
	フランス語初級1	1前・後		2								4
	フランス語初級2	1後		2								4
	中国語初級1	1前・後		2								6
	中国語初級2	1後		2								5
	韓国語初級1	1前・後		2								2
	韓国語初級2	1後		2								2
	スペイン語初級1	1前・後		2								2
	スペイン語初級2	1後		2								2
	日本手話初級1	1前・後		2								2
	日本手話初級2	1後		2								1
	ポルトガル語入門	1前		2								1
	ロシア語入門	1前		2								1
	イタリア語入門	1後		2								1
	アラビア語入門	1後		2								1
小計(16科目)			32									25
情報科目	情報処理基礎	1前	2				1					
	情報処理応用	1後	2				1					
	小計(2科目)	-	4				1					
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2			1		1				4
	健康・スポーツ実技	1後		1								1
	小計(2科目)	-	2		1	1		1				5
生物学	基礎生物学	1前	2			1						
	生物学	1後	2				1					
	小計(2科目)	-	4			1	1					
化学	化学基礎	1前		2			1					
	化学熱力学基礎	1前		2		1						
	有機化学	1後		2		1						
	小計(3科目)	-		6		2	1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物理学	物理学基礎	1前		2		1						
	力学	1前		2			1					
	電磁気学	1後		2			1					
	波動・熱力学	1後		2			1					
	小計(4科目)	-		8		1	2					
数学・統計学	微分積分学	1前	2			1	1					
	線形代数学I	1前	2			1	1					
	線形代数学II	1後		2		2						
	統計学B	1後		2		1						
	小計(4科目)	-	4	4		3	1					
自然科学実験	自然科学実験	1後	1			5	8					
	小計(1科目)	-	1			5	8					
専門基礎科目	総合理学概論A	1後	2			6	4	1				
	総合理学概論B	1後	2			5	6					
	総合理学実験入門	1前	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		4	2	1				
	物質科学実験	2前		2		2	4					
	生態学	2後		2			1					
	基礎生理学	2前		2		1						
	適応生理学	2前		2								1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2後		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
	生化学	2前		2			1					
分子生理学	2後		2				1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物理学	物理学基礎	1前		2		1						
	力学	1前		2			1					
	電磁気学	1後		2			1					
	波動・熱力学	1後		2				1				
	小計(4科目)	-		8		2	1					
数学・統計学	微分積分学	1前・後	2			1	1					
	線形代数学I	1前	2			1	1					
	線形代数学II	1後		2		2						
	統計学B	1後		2		1						
	小計(4科目)	-	4	4		3	1					
自然科学実験	自然科学実験	1後	1			7	7					
	小計(1科目)	-	1			7	7					
専門基礎科目	総合理学概論A	1後	2			6	5					
	総合理学概論B	1後	2			6	5					
	総合理学実験入門	1前	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		4	3					
	物質科学実験	2前		2		3	3					
	生態学	2後		2			1					
	基礎生理学	2前		2		1						
	適応生理学	2前		2								1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2前		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
	生化学	2前		2			1					
分子生理学	2後		2				1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	細胞生物学	2後		2		2						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2前		2			1					
	有機元素化学	2後		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2								1
	プログラミング I	2後		2			1		1			
	情報処理発展	2前	2				1		1			
	小計(24科目)			7	40		12	10	1	1		3
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1		1				
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2		1	1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								7
	生命科学各論	4前		1								1
小計(15科目)		-	29		5	4	1				15	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	細胞生物学	2後		2		1						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2前		2			1					
	有機元素化学	2後		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2								1
	プログラミング I	2後		2			1		1			
	情報処理発展	2前	2				1		1			
	小計(24科目)			7	40		12	10		1		3
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1	1					
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2		1	1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								10
	生命科学各論	4前		1								1
小計(15科目)		-	29		5	5					18	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		1	1					
	量子力学	2後		2			2					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2			2					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)			11		2	4					1
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)		-	11		3	1		1			2
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			11	9	1				
	専門演習Ⅰ	3後	2			11	9	1				
	専門演習Ⅱ	4前	2			11	9	1				
	専門演習Ⅲ	4後	2			11	9	1				
	卒業研究Ⅰ	3後	4			11	9	1				
	卒業研究Ⅱ	4前	4			11	9	1				
	卒業研究Ⅲ	4後	4			11	9	1				
	小計(7科目)		-	21		11	9	1				
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
	小計(2科目)		4									1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		1	1					
	量子力学	2後		2		1	1					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2		1	1					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)		-	11		3	3		0			1
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
	小計(6科目)		-	11		3	1		1			2
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			12	9					
	専門演習Ⅰ	3後	2			12	9					
	専門演習Ⅱ	4前	2			12	9					
	専門演習Ⅲ	4後	2			12	9					
	卒業研究Ⅰ	3後	4			12	9					
	卒業研究Ⅱ	4前	4			12	9					
	卒業研究Ⅲ	4後	4			12	9					
	小計(7科目)		-	21		12	9					
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
	小計(2科目)		4									1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 関連 科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2後			2							3
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2前			2							2
	教育課程論	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動論	2後			2							1
	教育方法論2	3後			2							1
	生徒・進路指導論	2前			2							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
	教職実践演習	4後			2	1						1
小計(15科目)			2	29	2						20	
合計(152科目)		-	47	224	30	11	10	1	1	0	105	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】・以下の(1)、(2)の要件を満たし124単位以上を修得すること。
 (1) 教養教育科目：共通科目から24単位以上(「大学特色科目」から2単位、「現代社会の諸相」及び「文化と人間性の探求」から4単位を含めて一般教養科目全体から8単位以上、外国語科目において「英語」から6単位以上、「その他の言語」から4単位以上、「情報科目」4単位、「健康・スポーツ科目」から2単位以上を含む)、基礎科目から「基礎生物学」及び「生物学」並びに「自然科学実験」を含めて21単位以上を修得すること。
 (2) 専門教育科目：必修科目32単位、選択科目47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))
 【進級要件】・2年次終了時において、以下の[1]~[4]の要件の一つでも満たしていない者は3年次に進級できない。
 [1] 教養教育科目における修得必要単位45単位の全てを修得していること。
 [2] 「総合理学概論A」2単位及び「総合理学概論B」2単位並びに「総合理学実験入門」1単位を修得していること。
 [3] 「生命科学実験」2単位及び「物質科学実験」2単位から2単位以上を修得していること。
 [4] [2]、[3]を含めて専門教育科目から25単位以上を修得していること。
 ・3年次終了時において、「専門演習Ⅰ」2単位及び「卒業研究Ⅰ」4単位を合わせて6単位を修得していない者は、4年次に進級することができない。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 関連 科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2後			2							3
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2前			2							2
	教育課程論	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後			2							1
	教育方法論2	3後			2							1
	生徒・進路指導論	2前			3							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
	教職実践演習	4後			2	1						1
特別支援教育2	2後			2							1	
小計(16科目)			2	32	2						20	
合計(172科目)		-	47	261	33	12	10	0	1	0	137	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】・以下の(1)、(2)の要件を満たし124単位以上を修得すること。
 (1) 教養教育科目：共通科目から24単位以上(「大学特色科目」から2単位、「現代社会の諸相」及び「文化と人間性の探求」から4単位を含めて一般教養科目全体から8単位以上、外国語科目において「英語」から6単位以上、「その他の言語」から4単位以上、「情報科目」4単位、「健康・スポーツ科目」から2単位以上を含む)、基礎科目から「基礎生物学」及び「生物学」並びに「自然科学実験」を含めて21単位以上を修得すること。
 (2) 専門教育科目：必修科目32単位、選択科目47単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))
 【進級要件】・2年次終了時において、以下の[1]~[4]の要件の一つでも満たしていない者は3年次に進級できない。
 [1] 教養教育科目における修得必要単位45単位の全てを修得していること。
 [2] 「総合理学概論A」2単位及び「総合理学概論B」2単位並びに「総合理学実験入門」1単位を修得していること。
 [3] 「生命科学実験」2単位及び「物質科学実験」2単位から2単位以上を修得していること。
 [4] [2]、[3]を含めて専門教育科目から25単位以上を修得していること。
 ・3年次終了時において、「専門演習Ⅰ」2単位及び「卒業研究Ⅰ」4単位を合わせて6単位を修得していない者は、4年次に進級することができない。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「平和論」の担当教員数を変更(4名→3名)
- ・兼任教員の変更に伴い、「宗教学入門」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
- ・記載誤りがあったため、「行動生態学」の科目区分を「自然と数理の探求」から「人間と自然」へ変更
- ・教育効果を高めるため、科目区分「英語」の科目の担当教員を追加
- ・「健康・スポーツ科学」の担当教員(兼任)1名が就任辞退
- ・教職課程認定申請に係る指摘対応のため、「学校教育心理学」及び「教育社会学」の担当教員を追加
- ・教職課程認定申請に係る指摘対応のため、「教育内容論1(教育課程論)」の科目名称を「教育課程論」へ変更

【令和元年度】

- ・教育課程充実のため、科目区分「大学特色科目」に「まちづくり論」を追加
- ・教育課程充実のため、科目区分「現代社会の諸相」に「人と法と医療」、「社会学C」、「社会環境論」、「フィールド研究からみるアジア」を追加
- ・記載誤りがあったため、「国際政治と社会」の担当教員数(兼任・兼担)を変更(1名→2名)
- ・記載誤りがあったため、「経済学:経済学の考え方」、「琉球・沖縄の歴史・文化を識る」、「文化に見る歴史」、「適応生理学」の専任教員等の配置の数字を削除
- ・教育課程充実のため、科目区分「文化と人間性の探求」に「日本文化の理解」、「日本語コミュニケーション」、「人間と表現」を追加
- ・教育効果を高めるため、「自然科学実験」の専任教員数を追加(13名→14名)
- ・教育効果を高めるため、「バイオサイエンス入門」の専任教員数を追加(2名→3名)
- ・教育効果を高めるため、「総合理学概論A」の専任教員数を追加(10名→11名)
- ・教育効果を高めるため、「生命科学実験」の専任教員数を追加(6名→7名)
- ・教育効果を高めるため、「分子遺伝学」の専任教員数を追加(1名→2名)
- ・教育効果を高めるため、「総合理学実習」「専門演習I」「専門演習II」「専門演習III」「卒業研究I」「卒業研究II」「卒業研究III」の専任教員数を追加(20名→21名)
- ・教育効果を高めるため、科目区分「英語」の科目の担当教員を追加
- ・教育課程充実のため、科目区分「英語」に「CS:TOEIC Preparation」を追加
- ・教育効果を高めるため、科目区分「その他の言語」の科目の担当教員を追加
- ・教育課程充実のため、科目区分「その他の言語」に「韓国語初級1」、「韓国語初級2」、「スペイン語初級1」、「スペイン語初級2」、「日本手話初級1」、「日本手話初級2」、「ポルトガル語入門」、「ロシア語入門」、「イタリア語入門」、「アラビア語入門」を追加
- ・履修順序を考慮し、「ドイツ語初級1」、「フランス語初級1」、「中国語初級1」の開講学期を「前期」から「前・後期」へ変更
- ・昇任のため、「健康・スポーツ科学」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更
- ・昇任のため、「力学」、「電磁気学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更
- ・履修順序を考慮し、「微分積分」学の開講学期を「前期」から「前・後期」へ変更
- ・自然科学実験の専任教員等の配置を「教授5」から「教授7」、「准教授8」から「准教授7」に変更
- ・教育職員免許法等の改正のため、「特別活動論」の科目名称を「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教育職員免許法等の改正のため、生徒・進路指導論の単位数を変更(2→3)
- ・教育職員免許法等の改正のため、科目区分「専門関連科目」に「特別支援教育2」を追加

【令和2年度】

1. 教養教育科目について
- (1) 新型コロナウイルスのパンデミックへの対応、履修順序の考慮により、次の通り、開講時期を変更
- ・「社会人になるA」の開講学期を「前期」から「1T・2T」へ変更(通常の前期の授業期間を前半(1T)と後半(2T)に分割して授業を行う。各期間において週2回の授業を行い、約8週で授業が完結する)
 - ・「日本国憲法」の開講学期を「前期」から「前・後期」へ変更
 - ・「琉球・沖縄の歴史・文化を識る」の開講学期を「前期」から「後期」へ変更
 - ・「討論の中で問題を発見する哲学」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
 - ・「ポルトガル語入門」の開講学期を「前期」から「後期」へ変更
 - ・「アラビア語入門」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
- (2) 教育課程充実のため、科目区分「大学特色科目」に「次世代エネルギーワークショップ」を追加
2. 専門教育科目について
- (1) 新型コロナウイルスのパンデミックへの対応、履修順序の考慮により、次の通り、開講時期を変更
- ・「総合理学概論A」、「総合理学概論B」の開講学期を「後期」から「通年」へ変更
 - ・「総合理学実験入門」の開講学期を「前期」から「通年」へ変更
 - ・「生物統計学」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更(平成31年度から変更していたが、報告漏れ)
 - ・「物理化学」の開講学期を「前期」から「後期」へ変更
 - ・「有機元素化学」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
 - ・「学校教育心理学」の開講学期を「前期」から「後期」へ変更
 - ・「教育社会学」の開講学期を「前期」から「後期」へ変更
 - ・「教育方法論2」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
- (2) 専任教員数の増加
- ・「基礎生理学」の専任教員数を追加(1名→2名)
 - ・「機器分析化学」の専任教員数を追加(2名→3名)
 - ・「総合理学実習」、「専門演習I」、「専門演習II」、「専門演習III」、「卒業研究I」、「卒業研究II」、「卒業研究III」の専任教員数を追加(21名→22名)

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	116 科目	15 科目	152 科目	21 科目 [0]	136 科目 [20]	16 科目 [1]	173 科目 [21]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	法学入門	2	1後	一般	選択	「法学入門」の担当の 兼担教授が、令和2年度、時間割の見直しで担当授業科目が過重になったため。代替措置については、当該科目が配置されている科目区分のカリキュラムの充実などを図っている（下記(5)にて詳述）。
2	死の文化学	2	1後	一般	選択	「死の文化学」は平成30年度開講したが、担当の 兼担准教授の退職（平成30年度末）以降は隔年開講とし、令和元年度は非開講とし、令和2年度は開講予定とするも後任補充ができなかったため。代替措置については、当該科目が配置されている科目区分のカリキュラムの充実などを図っている（下記(5)にて詳述）。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「法学入門」及び「死の文化学」は、他学部と共通の教養教育科目の下に配置されており、それぞれ科目区分『現代社会の諸相』及び『文化と人間性の探求』に属している。『現代社会の諸相』には、開設時からの10科目に、開設後のカリキュラム充実により4科目を追加し、計14科目が配置されている。また、『文化と人間性の探求』には、開設時からの17科目に、開設後のカリキュラム充実により3科目を追加し、計20科目配置されている。学生は『現代社会の諸相』及び『文化と人間性の探求』から2科目4単位を含めて履修する要件になっている。

「法学入門」（内容は日本国憲法等の公法）が未開講となっても、『現代社会の諸相』だけでも13科目あり、代替の科目としては「日本国憲法」が配置されており、かつ、「日本国憲法」は、前期・後期と2コマを増やして開講するなどの措置を講じている。

また、「死の文化学」（内容は日本人の死生観等）が未開講となっても、『文化と人間性の探求』だけでも19科目あり、代替の科目としては「応用倫理学 - 生命倫理の現在」、「宗教学入門」、「日本文化の理解」（科目追加）を配置するなどの措置を講じている。

学生には、教養教育履修要項で令和2年度は非開講である旨を周知し、履修登録も円滑に行われている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{152} = \boxed{1.31} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区分		内容				備考			
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	計算誤りがあったため、合計の数値を202,066.16㎡に修正(元)			
	校舎敷地	173,944.71 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	173,944.71 ㎡				
	運動場用地	2,175.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,175.00 ㎡				
	小計	176,119.71 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	176,119.71 ㎡				
	その他	25,946.45 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	25,946.45 ㎡				
	合計	202,066.16 ㎡ 206,066.16 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	202,066.16 ㎡ 206,066.16 ㎡				
(2) 校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	桜山キャンパスの西棟(13,955.36㎡)は病院施設であるが、控除されていないため、控除した数値に修正(元)				
	121,013.15 ㎡ 134,968.51 ㎡ (121,013.15 ㎡) (-134,968.51 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	121,013.15 ㎡ 134,968.51 ㎡ (121,013.15 ㎡) (-134,968.51 ㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	30 室	9 室	25 室	4 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室数			平成30年4月専任教員1名を新規採用のため(授業科目の担当は、AO教員審査受審後)(30)			
	総合生命理学部 総合生命理学科		23 22 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、学術雑誌、視聴覚資料は学部単位での特定不能なため、滝キャンパス全体の数。視聴覚資料の計上方法は、今回より「文科省学術情報基盤実態調査」での報告に準じた(マイクロ資料除外、及び種類数から点数へ変更)ため、前回より減少。電子ジャーナル数はキャンパス単位の計上が困難なため、今回より全学数(30)図書、学術雑誌、視聴覚資料、電子ジャーナルの計上の方法は30年度と同様(元)(2)機械・器具、標本は教育環境の充実を図るために整備(30)機械・器具、標本は教育環境の充実を図るために整備。標本は、動物が4881点、植物が286点で、ともに増加(元)機械・器具、標本は教育環境の充実を図るために整備。標本は、動物が4983点、植物が306点で、ともに増加(2)	
		総合生命理学部	569,087 [182,091] 567,606 [-181,980] 566,812 [-181,747] 564,600 [-181,022] (569,087 [182,091]) (-567,606 [-181,980]) (-566,812 [-181,747]) (-564,600 [-181,022])	6,652 [2,222] 6,657 [-2,221] 6,664 [2,222] 6,649 [2,208] (6,652 [2,222]) (-6,657 [-2,221]) (-6,664 [2,222]) (-6,649 [2,208])	25,698 [24,286] 25,539 [-24,168] 19,706 [-18,674] 3,297 [3,297] (25,698 [24,286]) (-25,539 [-24,168]) (-19,706 [-18,674]) (-3,297 [3,297])	420 418 411 629 (420) (-418) (-411) (-629)	675 637 594 425 (675) (-637) (-594) (-425)		5,289 5,167 4,562 2,209 (5,289) (-5,167) (-4,562) (-2,209)
	計	569,087 [182,091] 567,606 [-181,980] 566,812 [-181,747] 564,600 [-181,022] (569,087 [182,091]) (-567,606 [-181,980]) (-566,812 [-181,747]) (-564,600 [-181,022])	6,652 [2,222] 6,657 [-2,221] 6,664 [2,222] 6,649 [2,208] (6,652 [2,222]) (-6,657 [-2,221]) (-6,664 [2,222]) (-6,649 [2,208])	25,698 [24,286] 25,539 [-24,168] 19,706 [-18,674] 3,297 [3,297] (25,698 [24,286]) (-25,539 [-24,168]) (-19,706 [-18,674]) (-3,297 [3,297])	420 418 411 629 (420) (-418) (-411) (-629)	675 637 594 425 (675) (-637) (-594) (-425)	5,289 5,167 4,562 2,209 (5,289) (-5,167) (-4,562) (-2,209)		
(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数						
	7,785.00 ㎡	516	777,972						
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,148.00 ㎡	テニスコート、トレーニングルーム、プール、弓道場、野球場、馬場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	30年度予算を反映(30)元年度予算を反映(元)2年度予算を反映(2)
		教員1人当たり研究費等	481千円	486千円 480千円 472千円 481千円	図書購入費	5,073千円	5,137千円 5,249千円	5,723千円 5,669千円 5,137千円 5,249千円	
	共同研究費等	68,280千円	74,522千円 69,850千円 68,280千円	設備購入費	9,510千円	17,062千円	0千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次 767.8千円 867.8千円	第2年次 535.8千円	第3年次 535.8千円	第4年次 535.8千円	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要		学生1人あたり納付金の第1年次上段は名古屋市民、下段はその他							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しそのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		名古屋市立大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度		
総合生命理学部	4	43	-	164	学士 (理学)	1.07	令和2年度	平成30年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	定員変更(2)	
総合生命理学科	4	43	-	164	学士 (理学)	1.07	令和2年度	平成30年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	定員変更(2)	
医学部	6	97	-	582	学士 (医学)	1.00		昭和27年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
医学科	6	97	-	582	学士 (医学)	1.00		昭和27年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
薬学部		100		520		1.10					
薬学科	6	60	-	360	学士 (薬学)	1.08		平成18年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地		
生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学)	1.12		平成18年度	同上		
経済学部		230		920		1.03					
公共政策学科	4	90	-	360	学士 (経済学)	1.03		平成19年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
マネジメントシステム学科	4	80	-	320	学士 (経営学)	1.03	-	平成19年度	同上		
会計ファイナンス学科	4	60	-	240	学士 (経営学)	1.03		平成19年度	同上		
人文社会学部		194	12	800		1.05					
心理教育学科	4	59	2	240	学士 (人文社会学)	1.05		平成25年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
現代社会学科	4	67	6	280	学士 (人文社会学)	1.06		平成8年度	同上		
国際文化学科	4	68	4	280	学士 (人文社会学)	1.03		平成8年度	同上		
芸術工学部		100		400		1.03					
情報環境デザイン学科	4	30	-	120	学士 (芸術工学)	1.03		平成24年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号		
産業イノベーションデザイン学科	4	30	-	120	学士 (芸術工学)	1.05		平成24年度	同上		
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士 (芸術工学)	1.02		平成24年度	同上		
看護学部	4	80	-	322	学士 (看護学)	1.01		平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
看護学科	4	80	-	322	学士 (看護学)	1.01		平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
大学全体	-	844	12	3708	-	1.04	-	-	-		

医学研究科		62		228		0.88			
修士課程		10	-	20	修士 (医科学)	0.75	平成20年度	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 川澄1	
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	0.75	平成20年度	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 川澄1	
博士課程		52		208		0.88			
生体機能・構造 医学専攻	4	15	-	60	博士 (医学)	1.01	平成12年度	同上	
生体情報・機能 制御医学専攻	4	15	-	60	博士 (医学)	0.73	平成12年度	同上	
生体防御・総合 医学専攻	4	18	-	72	博士 (医学)	0.98	平成12年度	同上	
予防・社会医学 専攻	4	4	-	16	博士 (医学)	0.56	平成12年度	同上	
薬学研究科		64		160		0.89			
博士前期課程		42	-	84	修士 (薬科学)	1.01	平成22年度	愛知県名古屋市 瑞穂区田辺通3丁 目1番地	
創薬生命科学 専攻	2	42	-	84	修士 (薬科学)	1.01	平成22年度	愛知県名古屋市 瑞穂区田辺通3丁 目1番地	
博士後期課程		12		36		0.69			
創薬生命科学 専攻	3	8	-	24	博士 (薬科学)	0.95	平成24年度	同上	
共同ナノア 科学専攻	3	4	-	12	博士 (ナノア 科学)	0.16	平成25年度	同上	
博士課程		10	-	40	博士 (薬学)	0.97	平成24年度	同上	
医療機能薬学 専攻	4	10	-	40	博士 (薬学)	0.97	平成24年度	同上	
経済学研究科		45		95		0.46			
博士前期課程		40		80		0.72			
経済学専攻	2	20	-	40	修士 (経済学)	0.55	平成20年度	愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町字 山の畑1	
経営学専攻	2	20	-	40	修士 (経済学) 修士 (経営学)	0.90	平成20年度	同上	
博士後期課程		5		15		0.33			
経済学専攻	3	3	-	9	博士 (経済学)	0.00	平成20年度	同上	
経営学専攻	3	2	-	6	博士 (経済学) 博士 (経営学)	0.83	平成20年度	同上	

人間文化研究科		40		85		1.08			
博士前期課程		35	-	70	修士 (人間文化)	1.22	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
人間文化専攻	2	35	-	70	修士 (人間文化)	1.22	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
博士後期課程		5	-	15	博士 (人間文化)	0.60	平成14年度	同上	
人間文化専攻	3	5	-	15	博士 (人間文化)	0.60	平成14年度	同上	
芸術工学研究科		35		75		0.66			
博士前期課程		30	-	60	修士 (芸術工学)	0.69	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
芸術工学専攻	2	30	-	60	修士 (芸術工学)	0.69	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
博士後期課程		5	-	15	博士 (芸術工学)	0.66	平成14年度	同上	
芸術工学専攻	3	5	-	15	博士 (芸術工学)	0.66	平成14年度	同上	
看護学研究科		29		63		0.79			
博士前期課程		24	-	48	修士 (看護学)	0.66	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	
看護学専攻	2	24	-	48	修士 (看護学)	0.66	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	
博士後期課程		5	-	15	博士 (看護学)	0.86	平成17年度	同上	
看護学専攻	3	5	-	15	博士 (看護学)	0.86	平成17年度	同上	
理学研究科		20		45		0.63			
博士前期課程		15	-	30	修士 (理学)	0.46	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
理学情報専攻	2	15	-	30	修士 (理学)	0.46	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
博士後期課程		5	-	15	博士 (理学)	0.86	平成14年度	同上	
理学情報専攻	3	5	-	15	博士 (理学)	0.86	平成14年度	同上	
大学院全体	-	295		751		0.77			

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門※
専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I
専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学
専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門※
専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I
専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学
専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門※
専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I
専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学
専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門※
専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I
専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学
専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 健康・スポーツ科学※
		プログラミングII※ プログラミングI※ 情報処理発展※
兼任	教授	総合神経科学※
		社会学A※
兼任	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 健康・スポーツ科学※
		プログラミングII※ プログラミングI※ 情報処理発展※
兼任	教授	総合神経科学※
		社会学A※
兼任	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 健康・スポーツ科学※
		プログラミングII※ プログラミングI※ 情報処理発展※
兼任	教授	総合神経科学※
		社会学A※
兼任	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	准教授	生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 自然科学実験※ 行動生態学
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 情報処理応用 情報処理基礎
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 III 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 健康・スポーツ科学※
		プログラミングII※ プログラミングI※ 情報処理発展※
兼任	教授	総合神経科学※
		社会学A※
兼任	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	学校教育心理学 心理学入門
兼任	教授	日本国憲法 法学入門
兼任	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼任	教授	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習 EM: Reading for Inspiration
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	生物統計学
兼任	教授	経済学：経済学の考え方

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	学校教育心理学※ 心理学入門
兼任	教授	日本国憲法 法学入門
兼任	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼任	教授	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	生物統計学
兼任	教授	経済学：経済学の考え方

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	学校教育心理学※ 心理学入門
兼任	教授	日本国憲法 法学入門
兼任	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼任	教授	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	経済学：経済学の考え方

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	次世代エネルギーワーク ショップ
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	学校教育心理学※ 心理学入門
兼任	教授	日本国憲法
兼任	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	教育社会学
兼任	教授	経済学：経済学の考え方

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		健康・スポーツ実技
兼任	教授	
		教育学概論2 教職概論2 教育内容論1(教育課程論) 現代教育の諸相※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage
兼任	教授	
兼任	教授	
		討論の中で問題を発見する哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		健康・スポーツ実技
兼任	教授	
		教育学概論2 教職概論2 教育課程論 現代教育の諸相※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage
兼任	教授	
兼任	教授	
		討論の中で問題を発見する哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		健康・スポーツ実技
兼任	教授	
		教育学概論2 教職概論2 教育課程論 現代教育の諸相※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage
兼任	教授	
		兼任 教授 フィールド研究からみるア ジア※
兼任	教授	
		討論の中で問題を発見する 哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	
		健康・スポーツ実技
兼任	教授	
		教育学概論2 教職概論2 教育課程論 現代教育の諸相※
兼任	教授	
		CS: Grammar and Usage
兼任	教授	
		兼任 教授 フィールド研究からみるア ジア※
兼任	教授	
		討論の中で問題を発見する 哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	
		国際政治と社会
兼担	教授	
		経営学：企業活動の諸相
兼担	教授	
		文化に見る歴史
兼担	教授	
		教育制度論※ 次世代育成と地域の課題※
兼担	教授	
		教育相談
兼担	教授	
		平和論※ 東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	
		心理学概論
兼担	准教授	
		社会学B
兼担	准教授	
		放射線生物学※
兼担	准教授	
		EM: Reading for Inspiration
兼担	准教授	
		次世代育成と地域の課題※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	
		国際政治と社会 EM: Reading for Inspiration
兼担	教授	
		経営学：企業活動の諸相
兼担	教授	
		文化に見る歴史
兼担	教授	
		教育制度論※ 次世代育成と地域の課題※ 教育社会学※
兼担	教授	
		教育相談
兼担	教授	
		東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	
		心理学概論 学校教育心理学※
兼担	准教授	
		社会学B
兼担	准教授	
		放射線生物学※
兼担	准教授	
		EM: Reading for Inspiration
兼担	准教授	
		次世代育成と地域の課題※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	
		国際政治と社会
兼担	教授	
		経営学：企業活動の諸相
兼担	教授	
		文化に見る歴史
兼担	教授	
		教育制度論※ 次世代育成と地域の課題※ 教育社会学※
兼担	教授	
		教育相談
兼担	教授	
		東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	
		心理学概論 学校教育心理学※
兼担	准教授	
		社会学B
兼担	准教授	
		放射線生物学※
兼担	准教授	
		EM: Reading for Inspiration フィールド研究からみるアジア※
兼担	准教授	
		次世代育成と地域の課題※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	
		国際政治と社会
兼担	教授	
		経営学：企業活動の諸相
兼担	教授	
		文化に見る歴史
兼担	教授	
		教育制度論※ 次世代育成と地域の課題※
兼担	教授	
		教育相談
兼担	教授	
		東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	
		心理学概論 学校教育心理学※
兼担	准教授	
		社会学B
兼担	准教授	
		放射線生物学※
兼担	准教授	
		EM: Reading for Inspiration フィールド研究からみるアジア※
兼担	教授	
		次世代育成と地域の課題※

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		平和論※
兼任	准教授	
		音楽と文化
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		放射線生物学※
兼任	准教授	
		現代教育の諸相※ 教育社会学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		平和論※
兼任	准教授	
		音楽と文化
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		放射線生物学※
兼任	准教授	
		現代教育の諸相※ 教育社会学※

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		EM: Online Articles and Videos フィールド研究からみるアジア※
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		平和論※
兼任	准教授	
		音楽と文化
兼任	准教授	
		人間と表現※
兼任	准教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2
兼任	准教授	
		日本文化の理解
兼任	准教授	
		放射線生物学※
兼任	准教授	
		現代教育の諸相※ 教育社会学※

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	
		EM: Online Articles and Videos フィールド研究からみるアジア※
兼任	准教授	
		EM: Popular Culture
兼任	准教授	
		平和論※
兼任	准教授	
		音楽と文化
兼任	准教授	
		人間と表現※
兼任	准教授	
		フランス語初級1 フランス語初級2
兼任	准教授	
兼任	准教授	
		現代教育の諸相※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	
		死の文化学
兼担	准教授	CS: Grammar and Usage
兼担	准教授	中国語初級1 中国語初級2
兼担	准教授	平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・ 地方自治
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	放射線生物学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	死の文化学
兼担	准教授	平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・ 地方自治
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	放射線生物学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	フィールド研究からみるア ジア※
兼担	准教授	平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・ 地方自治 まちづくり論
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	EM: Reading for Inspiration
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	社会学C

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	放射線生物学※
兼担	准教授	平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	私たちの暮らしと政治・行政・ 地方自治 まちづくり論
兼担	准教授	EM: World News
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	EM: Reading for Inspiration
兼担	講師	放射線生物学※
兼担	講師	社会学C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	放射線生物学※
兼任	講師	数理情報科学各論
兼任	講師	都市と地域構造の地理学
兼任	講師	生命科学各論
兼任	講師	放射線生物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	放射線生物学※
兼任	講師	数理情報科学各論
兼任	講師	都市と地域構造の地理学
兼任	講師	生命科学各論
兼任	講師	放射線生物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	放射線生物学※
兼任	講師	数理情報科学各論
兼任	講師	都市と地域構造の地理学
兼任	講師	グローバルコミュニケーション
兼任	講師	生命科学各論
兼任	講師	放射線生物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	日本文化の理解
兼任	講師	放射線生物学※
兼任	助教	放射線生物学※
兼任	助教	放射線生物学※
兼任	講師	数理情報科学各論
兼任	講師	都市と地域構造の地理学
兼任	講師	グローバルコミュニケーション
兼任	講師	生命科学各論
兼任	講師	放射線生物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	教育制度論※
兼任	講師	健康・スポーツ科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	教育制度論※
兼任	講師	健康・スポーツ科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	教育制度論※
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	中国語初級1 中国語初級2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	中国語初級1 中国語初級2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	学校教育心理学※
兼任	講師	教育方法論2
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	社会学A※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	学校教育心理学※
兼任	講師	教育方法論2
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	社会学A※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	学校教育心理学※
兼任	講師	教育方法論2
兼任	講師	日本語初級1
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	ポルトガル語入門
兼任	講師	社会学A※
兼任	講師	韓国語初級1 韓国語初級2
兼任	講師	スペイン語初級1 スペイン語初級2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	学校教育心理学※
兼任	講師	教育方法論2
兼任	講師	日本語初級1 日本語初級2
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	ポルトガル語入門
兼任	講師	社会学A※
兼任	講師	教育制度論※
兼任	講師	韓国語初級1 韓国語初級2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	IS: Life & Work
兼任	講師	物質科学各論
兼任	講師	自然科学英語 グローバルコミュニケーション

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	IS: Life & Work
兼任	講師	物質科学各論
兼任	講師	自然科学英語 グローバルコミュニケーショ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	日本語コミュニケーション
兼任	講師	中国語初級1 中国語初級2
兼任	講師	物質科学各論
兼任	講師	生物統計学
兼任	講師	アラビア語入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	日本語コミュニケーション
兼任	講師	中国語初級1 中国語初級2
兼任	講師	物質科学各論
兼任	講師	生物統計学
兼任	講師	アラビア語入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	宗教学入門
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos CS: TOEIC Preparation
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie CS: Presentation

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	イタリア語入門
兼任	講師	ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie CS: Presentation

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	イタリア語入門
兼任	講師	ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	放射線生物学※
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	フィールド研究からみるアジア※
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie CS: Presentation

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		総合博物館※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community EM: World News
兼任	講師	
		総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		総合博物館※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community AE: Improve Life Skills EM: World News
兼任	講師	
		総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	人と法と医療※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Improve Life Skills EM: World News EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	中国語初級 1 中国語初級 2
兼任	講師	
		総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	スペイン語初級 1 スペイン語初級 2
兼任	講師	人と法と医療※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Improve Life Skills EM: World News EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	中国語初級 1 中国語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	総合神経科学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community GS: Presentation
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	総合神経科学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community GS: Presentation
兼任	講師	フランス語初級 1 フランス語初級 2
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境
兼任	講師	EM: World News GS: TOEIC Preparation
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	総合神経科学※
兼任	講師	フランス語初級 1 フランス語初級 2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ドイツ語初級 1 ドイツ語初級 2
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community GS: Presentation
兼任	講師	フランス語初級 1
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境
兼任	講師	EM: World News GS: TOEIC Preparation
兼任	講師	総合神経科学※
兼任	講師	フランス語初級 1 フランス語初級 2
兼任	講師	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動論
兼任	講師	総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動論
兼任	講師	総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	韓国語初級1 韓国語初級2
兼任	講師	IS: Life & Work AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	人間と表現※
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動及び総合的な学習 の時間の指導法
兼任	講師	総合博物館※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	韓国語初級1 韓国語初級2
兼任	講師	IS: Life & Work AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	人間と表現※
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動及び総合的な学習 の時間の指導法

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	生態測定学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	生態測定学※
		宗教学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	人と法と医療※
兼任	講師	ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	講師	生態測定学※
		宗教学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	人と法と医療※
兼任	講師	ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	講師	生態測定学※
		ドイツ語初級1
		宗教学入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題			名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題			名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題			名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題
			兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
					EM: Online Articles and Videos			EM: Online Articles and Videos 自然科学英語			EM: Online Articles and Videos 自然科学英語
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation			IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation			IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation			IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation
						兼任	講師		兼任	講師	
								スペイン語初級1 スペイン語初級2			スペイン語初級1 スペイン語初級2
兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		健康・スポーツ科学			健康・スポーツ科学			健康・スポーツ科学			健康・スポーツ科学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・教職課程認定申請に係る審査対応の都合上、担当教員（「学校教育心理学」に 准教授（兼任）および 講師（兼任）、「教育社会学」に 教授（兼任））を追加し、オムニバス科目へ変更
 ・教職課程認定申請に係る審査対応の都合上、「教育内容論I（教育課程論）」を「教育課程論」に名称変更（担当教員： 教授（兼任））
 ・教育効果を高めるため、また、 准教授（兼任）辞任により、科目区分「英語」の科目の担当教員を追加。追加教員・担当科目は以下のとおり。 教授（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「CS: Grammar and Usage」、 講師（兼任）「EM: Online Articles and Videos」
 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「CS: Grammar and Usage」、 講師（兼任）「EM: Popular Culture」、 講師（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: Online Articles and Videos」、 講師（兼任）「EM: Popular Culture」、
 講師（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: Popular Culture」、 講師（兼任）「EM: Popular Culture」、 講師（兼任）「EM: Online Articles and Videos」、 講師（兼任）「IS: The Arts」「AE: Produce a Movie」「CS: Presentation」、 講師（兼任）「AE: Improve Life Skills」、 講師（兼任）
 「IS: Social Justice」「AE: Make a Difference in Your Community」「CS: Presentation」、 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「EM: Online Articles and Videos」
 ・「平和論」の担当教員数を変更（4名→3名（ 兼任）を担当から削除）
 ・「東ヨーロッパの文化と歴史」を隔年開講としたことに伴い、 教授（兼任）の就任（予定）年月を「平成30年9月」から「平成31年9月」に変更
 ・「健康・スポーツ科学」の担当教員（ 講師（兼任））1名が就任辞任

【令和元年度】

・平成30年9月、専任に 教授就任。平成30年8月教員審査済み。
 ・平成31年4月、専任の 教授が准教授から、 准教授が講師からそれぞれ昇任。平成31年2月教員審査済み。
 ・教育効果を高めるため、「自然科学実験」「バイオサイエンス入門」「総合理学概論A」「生命科学実験」「分子遺伝学」「総合理学実習」「専門演習I」「専門演習II」「専門演習III」「卒業研究I」「卒業研究II」「卒業研究III」の担当教員を追加し、 教授（専任）就任により担当。また、「細胞生物学」を 教授（専任）に代わり担当。
 ・ 講師（兼任）退任、 教授（兼任）担当辞任により、「EM: Reading for Inspiration」に 講師（兼任）就任し、 講師（兼任）が「EM: Online Articles and Videos」から変更して担当。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「社会環境論」に 教授（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「フィールド研究からみるアジア」に 教授（兼任）、 准教授（兼任）就任
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「人間と表現」に 准教授（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「日本文化の理解」に 准教授（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「社会学C」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「CS: TOEIC Preparation」に 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）及び 講師（兼任）退任により、「EM: Popular Culture」に 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「中国語初級1」「中国語初級2」に 講師（兼任）、 講師（兼任）、 講師（兼任）、 講師（兼任）「中国語初級1」「中国語初級2」就任。「中国語初級1」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「特別支援教育2」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「日本手話初級1」「日本手話初級2」に 講師（兼任）就任。「日本手話初級1」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「韓国語初級1」「韓国語初級2」に 講師（兼任）、 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「スペイン語初級1」「スペイン語初級2」に 講師（兼任）、 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「日本語コミュニケーション」に 講師（兼任）就任。
 ・ 教授（兼任）就任辞任により、「生物統計学」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「アラビア語入門」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「ポルトガル語入門」に 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「ドイツ語初級1」「ドイツ語初級2」に 講師（兼任）、 講師（兼任）、 講師（兼任）、 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「フランス語初級1」「フランス語初級2」に 講師（兼任）、 講師（兼任）、 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「ロシア語入門」に 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）辞任により、「総合生物学」に 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「CS: Grammar and Usage」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「イタリア語入門」に 講師（兼任）就任。
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「人と法と医療」に 講師（兼任）、 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）退任により、「IS: Life & Work」「CS: Presentation」に、また、教育効果を高めるため担当教員を追加し、「AE: Interact Internationally」に、 講師（兼任）就任。
 ・ 准教授（兼任）退任（担当科目：「死の文化学」は後任未定であるが隔年開講で今年は未開講）。
 ・ 教授（兼任）及び 准教授（兼任）の担当科目に「フィールド研究からみるアジア」を追加。
 ・ 准教授（兼任）の担当科目に「まちづくり論」を追加。
 ・ 講師（兼任）及び 講師（兼任）の担当科目に「CS: TOEIC Preparation」を追加。
 ・ 講師（兼任）の担当科目から「AE: Make a Difference in Your Community」を削除

【令和2年度】

1. 専任教員について
 ・教育効果を高めるため、「機器分析化学」の担当教員を追加し、 教授（専任）担当。令和2年2月教員審査済み。
 ・教育効果を高めるため、「総合理学実習」「卒業研究I」「卒業研究II」「卒業研究III」「専門演習I」「専門演習II」「専門演習III」の担当教員を追加し、 准教授（専任）担当。令和2年2月教員審査済み。
 ・教育効果を高めるため、「基礎生理学」の担当教員を追加し、 准教授（専任）担当。令和2年2月教員審査済み。
 2. 兼任・兼任教員について
 ・教育課程充実のため追加した科目の担当教員として、「次世代エネルギーワークショップ」に 教授（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「放射線生物学」に 准教授（兼任）、 助教（兼任）、 助教（兼任）及び 講師（兼任）就任。（ 准教授（兼任）は退任。）
 ・ 兼任教授の担当科目から未開講の「法学入門」を削除。
 ・ 教授（兼任）退任により、「教職実践演習（中・高）」、「高等学校教育実習」に 講師（兼任）就任。
 ・ 教授（兼任）及び 准教授（兼任）担当辞任により、「教育社会学」に 教授（兼任）就任。
 ・ 准教授（兼任）担当辞任により、「日本文化の理解」に 講師（兼任）就任。
 ・ 准教授（兼任）平成30年度末で退任のため、平成30年度開講した「死の文化学」は隔年開講とし、令和元年度は非開講、令和2年度は開講予定とするも後任補充ができなかったため未開講。
 ・ 准教授（兼任）退任により、「フィールド研究からみるアジア」に 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）退任により、「EM: World News」に 准教授（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）及び 講師（兼任）退任により、「CS: Grammar and Usage」に 講師（兼任）及び 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）退任により、「教育制度論」に 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）退任により、「スペイン語初級1」「スペイン語初級2」に 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「EM: Reading for Inspiration」に 講師（兼任）及び 講師（兼任）就任。
 ・教育効果を高めるため担当教員を追加し、「ドイツ語初級1」に 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）、 講師（兼任）及び 講師（兼任）退任により、「総合生物学」に 講師（兼任）、 講師（兼任）及び 講師（兼任）就任。
 ・ 講師（兼任）就任辞任により、「自然科学英語」に 講師（兼任）就任、「グローバルコミュニケーション」に 講師（兼任）就任。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
10	10	1	1	22	0	12	10	0	1	23	0
(10)	(10)	(1)	(1)	(22)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
12	10	0	1	23	0	12	10	0	1	23	0
[2]	[]	[Δ1]	[]	[1]	[0]	[2]	[]	[Δ1]	[]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{22} = \boxed{104.54} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{23} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし			

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、

具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 入学定員</p> <p>40名</p> <p>② 選抜方法</p> <p>一般入試のみを行う。本学の選抜は、前期日程・中期日程・後期日程で行っているが、本学部については後期日程のみを実施する。選抜方法としては、個別学力検査等の結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に判定して、最終合格者を決定する。2段階選抜は行わない。</p>	<p>① 推薦入試枠確保のため、令和元年度に1名、令和2年度に2名増加したので、以下のように変更する。 (別途、平成30年度6月8日及び令和元年6月5日、収容定員の変更に係る学則変更届出済み)</p> <p>43名</p> <p>② 高大接続推進と多様な入試実現のため、令和元年度入から導入した名古屋市立高等学校連携指定校推薦型選抜に加え、令和2年度入試に名古屋市高大接続推薦型選抜を、令和3年度入試に私費外国人留学生試験追加したので、以下のように変更する。</p> <p>一般入試、推薦入試、私費外国人留学生試験及び第3年次編入学試験を行う。本学の選抜は、前期日程・中期日程・後期日程で行っているが、本学部については後期日程のみを実施する。選抜方法としては、個別学力検査等の結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に判定して、最終合格者を決定する。2段階選抜は行わない。</p> <p>なお、令和3年度から一般選抜の個別学力検査等の理科の選択科目を以下のとおり変更する。 変更前 「物理基礎・物理」から2問、「化学基礎・化学」から2問、「生物基礎・生物」から2問、合計6問を出題し、うち4問を選択 変更後 「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目を選択</p> <p>名古屋市立高等学校高大接続推薦入試及び私費外国人留学生試験の内容は以下のとおりである（第3年次編入学試験は、若干名の募集で定員は設けておらず、1年次入学者が多くなってしまったため、令和3年度の試験は実施せず、令和4年度以降の実施を予定）。</p> <p>総合生命理学部 名古屋市高大接続推薦型選抜</p> <p>募集人員：2名</p> <p>選抜方法： 面接試験を実施する。 出願書類、大学入学共通テストの成績及び面接試験の成績による審査の結果を総合して入学者の選抜を行う。</p>

【大学入学共通テストの教科及び配点】

国語100 数学100 外国語100 地理歴史又は公民50 理科150
計500

※ 「国語」は100点満点とする。

※ 「数学」は各科目50点満点とする。

※ 「外国語」は100点満点とする。なお、「外国語」の英語はリスニングを含む。リスニングの配点比率は20%（筆記80点、リスニング20点）とする。

※ 「地理歴史、公民」は50点満点とする。なお、「地理歴史、公民」を2科目受験した場合は、第1解答科目を合否判定に用いる。

※ 「理科」は各75点満点とする。

.....
本学総合生命理学部への入学を強く希望し、以下の各号の全てに該当する者

(1) 本学が指定する高等学校を令和3年3月に卒業見込みの者 ※1

(2) 調査書の数学、理科、英語のそれぞれの評定平均値が3.6以上である者

(3) 将来、基礎自然科学または数理・情報科学分野の研究・発展に対して貢献が期待できる能力及び適性等を有する人物として、当該高等学校長が責任をもって推薦する者

(4) 令和3年度大学入学共通テストにおいて、以下の5教科7科目を受験する者

教科（科目）

国語（国語）、数学（数Ⅰ・数A及び数Ⅱ・数B、簿、情報から1科目選択 ※2）、理科（物理、化学、生物、地学から2科目選択）、地理歴史・公民（世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫政経から1科目選択 ※3 ※4）、外国語（英語 ※5）

(5) 数学Ⅲを履修した（見込み）者

(6) 合格した場合、必ず入学することを確約する者

※1 推薦は1つの高等学校につき、2名を限度とする。

※2 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した（見込み）者に限る。

※3 2科目を受験した場合は、第1回答科目を合否判定に用いる。

※4 倫政経とは、「倫理、政治・経済」を指す。

※5 英語はリスニングを含む。リスニングの配点比率は20%とする。

その他：

他の国公立大学及び本学他学部の推薦入試に出願する者は、本推薦入試に出願できない。

総合生命理学部 私費外国人留学生選抜

募集人員：若干名

選抜方法：

第1段階選抜

日本留学試験の成績により合格者を決定する。

第2段階選抜

第1段階選抜合格者に対して、日本語による面接試験を課し、その結果、日本留学試験及びTOEIC公開テスト(Listening & Reading)の成績により総合判定する。

日本留学試験利用科目（出題言語は日本語）：

日本語、数学(コース2)、理科(物理・化学・生物から2科目選択)

出願資格：

次の各号のすべてに該当する者

(1) 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く。）

(2) 次のいずれかに該当する者（ただし、下記のいずれかに該当していても、日本の高等学校又は中等教育学校の後期課程を卒業した者は除く。）

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和3年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの ※

※ 12年未満の課程の場合は、さらに指定された準備教育課程又は研修施設の課程等を修了する必要がある。

※ 「文部科学大臣の指定した者」の詳細は、本学学生課入試係まで問い合わせること。

イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者

ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者

エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者

オ グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスド・レベル資格(GCEAレベル資格)を有し、その資格に3科目以上合格している者

(3) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する令和2年度第1回日本留学試験(2020年6月実施)又は令和元年度第1回日本留学試験(2019年6月実施)若しくは第2回日本留学試験(2019年11月実施)を受験した者。

(4) 「TOEIC公開テスト(Listening & Reading)」を受験した者

<p>③ 他学部の授業科目について</p> <p>他学部の授業科目の履修については記載なし。</p> <p>④ 部屋の用途（4号館4階）</p> <p>計算機演習室</p>	<p>③ 他学部の授業科目について、以下のように変更する。</p> <p>他学部のうち、薬学部で開講する以下の科目に限り、履修を認める。修得した単位は、6単位まで専門科目の単位に算入することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「機能形態学Ⅰ」 2単位 配当年次：1年 後期 ・「機能形態学Ⅱ」 2単位 配当年次：2年 前期 ・「薬学物理化学Ⅲ」 2単位 配当年次：2年 後期 ・「衛生化学」 2単位 配当年次：3年 前期 ・「バイオインフォマティクス」 1単位 配当年次：3年 後期 ・「ケミカルバイオロジー」 1単位 配当年次：3年 後期 <p>④ 部屋の用途を変えたため、以下のように変更する。 (校舎面積に変更はない。)</p> <p>ラーニング・コモンズ (パソコンを用いた演習に特化した部屋から、多目的な用途に使える部屋に改修した)</p>
--	---

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、各部局における部局単位のFD活動を実施するだけでなく、大学全体の教育の質の向上に資することを目的とする「全学教育機構」、全学的な教育改革の推進を目的とする「高等教育院」を設置している。また、SD研修等の検討及び実施については、事務局総務課が中心となっており、教育研究支援に資する研修等を各所管課と連携して実施している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年度は、全学教育機構会議を4回開催した。委員会には、全ての研究科から教員が参加している。

c 委員会の審議事項等

FD実施計画について

教育改革フォーラムについて

「授業についてのアンケート」について

研究授業の実施について

大学満足度調査結果について

FD・SD講演会について 等

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査
- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）
- ・ 新任教員研修
- ・ FD講演会
- ・ 教育改革フォーラム
- ・ 教育研究支援に資する研修

b 実施方法

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査

教育内容や教育環境に対する学生の意向を把握するため、平成19年より毎年度大学満足度調査を実施し、結果を本学ウェブサイト（学内限定ページ）で公表している。

- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）

学生に対する授業評価アンケートの総合評価等を踏まえて実施科目を選出し、参観教員からアンケートをとり、授業担当教員にフィードバックしている。

- ・ 新任教員研修

新任教員を対象に、毎年4月に実施している。実施後は速やかに本学HPへ研修の様態や成果を掲載している。

- ・ FD講演会

全学対象の講演会・講習会を各年1回程度開催し、各学部・研究科の教員が参加している。開催後、速やかに本学HPへ講演会・講習会の様態や成果を掲載するとともに、参加者からアンケートをとり、その結果を分析し次回の改善に充てている。

- ・ 教育改革フォーラム

全学的なFD推進活動の一環として、教育改革に関するフォーラムを開催している。各回でテーマを設定し、教員・職員を交えた講演、グループ討論、パネルディスカッション等を実施している。

- ・ 教育研究支援に資する研修

大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識等を身につけ、能力及び資質の向上を図るための研修、教職員として求められるマネジメント能力、コミュニケーション能力、事務処理能力等の向上を図るための研修などに体系的に取り組んでいる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査

原則として、新2年生以上は年度当初の学部別ガイダンス時、前年度卒業生は卒業式当日に実施している。

・ 研究授業（教員相互の授業参観）

各学部、研究科の専門科目において研究授業を実施した。

・ 新任教員研修

令和元年度は4月8日に開催し、各学部・研究科から10名が参加した。

・ FD講演会

令和元年度は令和2年2月14日に開催し、教職員60名が参加した。

・ 教育改革フォーラム

令和元年度は9月19日（参加教職員54名）、12月26日（参加教職員39名）の計2回開催した。

・ 教育研究支援に資する研修

令和元年度の開催実績は以下のとおり。

・ 新規採用者研修（4月3日開催）／教職員308名参加 ※大学の管理運営に必要な知識に関する研修

・ 教員倫理研修会（6月28日開催）／教職員（大学院生含む）59名参加

・ 研究不正防止等説明会（研究不正防止編）（6月28日開催）／教職員（大学院生含む）163名参加

・ 研究不正防止等説明会（研究費の不正使用防止編）（6月28日開催）／教職員（大学院生含む）58名参加

・ FD・SD講演会（12月16日開催）／教職員79名参加

※国立大学改革、大学の国際化等について理解を深め、今後の大学運営に資する研修

・ コンプライアンス研修（10月3日開催）／教職員46名参加

・ ワーク・ライフ・バランス講演会（12月18日開催）／教職員（学生・一般含む）74名参加

・ 男女共同参画セミナー（12月9日）／教職員（学生含む）69名参加

・ 男女共同参画推進センター主催学生と研究者の懇談会（11月11日）／教職員（学生含む）46名参加

・ 事務職員新規採用者研修（文書事務、教務事務、電子情報の取り扱いなど）（4月12日開催）／職員44名参加

・ 近隣大学との合同研修（人権・倫理・ハラスメント、コミュニケーション、セルフコントロール等）

（9月12日・20日開催）／職員30名参加

・ 事務職員階層別研修（OJT・問題解決）（5月8日・12月13日開催）

／職員46名参加 ※一部近隣大学と合同開催

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

大学満足度調査結果及び授業評価アンケート結果は、各部局のFD委員により構成されるFD専門委員会や全学会議において報告している。さらに、各部局のFD委員会やワークショップ等でも独自に結果分析を行い、授業手法の改善等に活用している。

また、講演会等の模様・成果は本学HPや学内広報誌等に掲載している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に実施している

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート集計結果は各教員に通知するとともに、結果に対するコメントや次期授業に向けた改善案の提出を教員に対して義務づけている。アンケート結果については、教員からのフィードバックコメントとあわせて、本学ウェブサイト（学内限定ページ）で公表している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、愛知県を含めた東海三県における理学部設置率が際立って低い課題を解決し、基礎科学をベースとした人材育成を推進するため設置された。自然科学と数理情報科学の知識を活かしイノベーション創出に貢献できる人材、グローバル視野を持ち名古屋市を中心とした地域の持続的発展を担う人材、そして理系の教育を担う人材を育成することを教育研究上の目的としている。生命科学を中心として理学の基礎を総合的に理解した上で各自の専門分野の教育研究を行い、既存の学問領域の枠を超えて柔軟な思考のできる人材を輩出するためのカリキュラムを実践している。同時に、情報科学に精通した人材を育成することにも力を入れている。

令和2年度入試を分析すると、愛知県内に居住する受験者の割合は71.6%の高い数字を維持し、通学圏内と考えられる岐阜県・三重県の居住者を加えた比率も81.6%と東海地区の少ない理学の進学先として十分に目的を果たしている。志願倍率は平成30年度の4.1倍、平成31年度の5.2倍から更に6.5倍へと上昇した。設置申請にあたり実施した高校生対象のアンケート結果に表されていた中部地域における理学部の需要を改めて証明した。また、多様な入試の機会を提供するため、名古屋市立高校向けの推薦入試を実施し、推薦入学として初めて2名を迎え入れた。後期日程による一般入試は、入学者の理学部併願が36.7%と最も多く理学部ニーズを取り込むことができた。次に医歯学部24.4%、工学部18.4%、農学部12.2%と続き、特に医歯学部併願者が急増した。しかし、入学手続き者51名と定員の1.18倍となったことが痛恨の極みである。センター試験最後ということを鑑みて合格者数を算定したが、予想を上回る低辞退率であり、合格発表以後の新型コロナウイルス感染者数の急激な増加が少なからず影響したと考えている。

令和2年度は、平成30年度に入学した1期生が3年となり後期から卒業研究を開始することが大きな特徴となっている。設置3年目にして本格的な専門教育・研究指導が始まる。研究力に優れ、かつ理系の知識に偏らずよりバランスの良い教養を持った人材の育成に寄与できると期待している。教職員はやる気に溢れ、教育研究上の目的を堅持し、設置計画に沿った教育を実践し、本学部及び本学に課せられた社会的使命・責任を果たして参りたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成28年3月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公表している

③ 認証評価を受ける計画

・平成28年度大学評価（認証評価）を受け、平成29年3月に、認証評価機関より、【評価の結果、貴大学は大学基準に適合していると認定する。】と評価された。次回は令和4年度に受ける予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

名古屋市立大学高等教育院規程

目次

- 第1章 総則（第1条—第3条）
 - 第2章 組織（第4条・第5条）
 - 第3章 運営会議（第6条—第8条）
 - 第4章 委員会等（第9条—第12条）
 - 第5章 その他（第13条・第14条）
- 附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第5条の規定に基づき設置する名古屋市立大学高等教育院（以下「高等教育院」という。）の管理及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 高等教育院は、教養教育及び全学語学教育の企画及び実施について統括するとともに、教育及び学生支援情報を管理し、その活用を図ることにより、名古屋市立大学（以下「本学」という。）における教育改革を全学的に推進することを目的とする。

（事業）

第3条 高等教育院は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 全学教育改革の推進に関すること。
- (2) 教育の質保証に関すること。
- (3) 初年次教育の企画に関すること。
- (4) 教養教育に関すること。
- (5) 全学語学教育に関すること。
- (6) 教学に関する I R（本学における様々な情報を収集、分析することにより、学内の意思決定や改善活動を支援する取り組み（インスティテューショナル・リサーチ）をいう。）に関すること。
- (7) 全学的に行う F D（教育方法等を改善するための組織的な研究、研修等に取り組む活動（ファカルティ・ディベロップメント）をいう。以下同じ。）に関すること。
- (8) 教育支援に係る S D（大学等の運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修等の取り組み（スタッフ・ディベロップメント）をいう。）の推進に関すること。
- (9) 学生の育成及びキャリア教育（実務家教員養成課程にかかる事業を含む。）

に關すること。

(10) 前各号に掲げるもののほか、前条に掲げる目的を達成するために必要な事業。

- 2 前項第5号の事業は名古屋市立大学国際交流センター規程（平成20年公立大学法人名古屋市立大学達12号）に規定する国際交流センターと、前項第9号の事業（実務家教員養成課程にかかる事業を除く。）は名古屋市立大学キャリア支援センター規程（平成19年公立大学法人名古屋市立大学達7号）に規定するキャリア支援センターと連携を図りながら行うものとする。

（一部改正 令和2年達第77号）

第2章 組織

（高等教育院長等）

第4条 学則第8条第3項の規定に基づき、高等教育院に高等教育院長（以下「院長」という。）を置く。

- 2 院長は、理事長の命を受け、高等教育院を代表し、その業務を統轄する。
- 3 高等教育院に高等教育院副院長（以下「副院長」という。）若干名を置くことができる。
- 4 副院長は院長を補佐し、院長が欠けたとき又は院長に事故等がありその職務を行うことができないとき、その職務を代理する。この場合において、副院長が2名以上置かれるときは、院長があらかじめ指定する順序に従いその職務を代理する。
- 5 院長及び副院長の任命については、別に定める。

（一部改正 令和2年達第77号）

（事務組織）

第5条 高等教育院の事務は、事務局教務企画室が行う。

第3章 運営会議

（高等教育院運営会議）

第6条 高等教育院に高等教育院運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

- 2 運営会議は次の事項を審議する。
- (1) 高等教育院運営の基本方針に關すること。
- (2) 高等教育院に關する要綱等の制定改廃に關すること。
- (3) 第3条第1項各号に掲げる事業（実務家教員養成課程にかかる事業を除く。）に關すること。
- (4) その他高等教育院に關し必要な事項。

（一部改正 令和2年達第77号）

（委員等）

第7条 運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院長
- (2) 副院長

- (3) 高等教育院の教員
 - (4) 事務局教務企画室長
 - (5) その他院長が必要と認めた者
- 2 運営会議は、院長が招集してその議長となる。
 - 3 運営会議に副議長を置き、副議長は委員のうちから議長が指名する。
 - 4 議長に事故があるとき又は欠けたときは、副議長がその職務を代理する。
(議事)

第8条 運営会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 2 運営会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- 3 運営会議が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。

第4章 委員会等

(教養教育運営委員会)

第9条 高等教育院に教養教育運営委員会を置く。

- 2 教養教育運営委員会は次の事項を審議する。
 - (1) 教養教育に係る企画、立案及び実施に関すること。
 - (2) 教養教育に係る自己点検及び評価に関すること。
 - (3) 教養教育に係るFDの企画、立案及び実施に関すること。
 - (4) 教養教育に係る部局間協力の推進に関すること。
 - (5) 教養教育担当教員(非常勤講師を含む。)の配置に関すること。
 - (6) 教養教育に係る予算及び学修環境の整備に関すること。
 - (7) その他教養教育運営委員会が必要と認める事項。
- (委員等)

第10条 教養教育運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院長
 - (2) 第12条第2項に規定する部会長
 - (3) 各学部から選出された教授又は准教授 各1名
 - (4) 高等教育院教員のうち院長が指名する者 1名
 - (5) 事務局教務企画室長
- 2 教養教育運営委員会に委員長を置き、院長をもって充てる。
 - 3 委員長は、教養教育運営委員会を招集し、その議長となる。
 - 4 議長が必要と認めたときは、教養教育運営委員会に第1項に掲げる者以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
 - 5 第1項第3号及び第4号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(一部改正 令和2年達第77号)

(議事)

第11条 教養教育運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 教養教育運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

(部会)

第12条 第3条第1項第4号に掲げる事業に係る個別の事項を実施するため、教養教育運営委員会に、別表の部会を置く。

2 部会に部会長を置き、別表に規定する構成員の中から教養教育運営委員会委員長が指名する。

3 部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(一部改正 令和2年達第77号)

第5章 その他

(庶務)

第13条 運営会議、教養教育運営委員会の庶務は、事務局教務企画室において処理する。

(委任)

第14条 この規程に定めるもののほか、高等教育院の運営に関し必要な事項は、院長が定める。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 名古屋市立大学教養教育センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第26号）は、廃止する。

3 名古屋市立大学語学センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第27号）は、廃止する。

附 則（令和2年公立大学法人名古屋市立大学達第77号）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

別表

部会名	構 成 員
人文部会	人文系科目に関する分野の専任教員
社会部会	社会系科目に関する分野の専任教員
自然部会	自然系科目に関する分野の専任教員
語学部会	語学系科目に関する分野の専任教員
数理情報部会	数理情報系科目に関する分野の専任教員
健康科学部会	健康科学系科目に関する分野の専任教員

名古屋市立大学全学教育機構規程

(趣旨)

第1条 名古屋市立大学において、教育の質を管理し、あわせて教養教育、専門教育及び大学院教育を体系的に行うための機関として、名古屋市立大学全学教育機構（以下「機構」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 機構は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教養教育及び専門教育の一体的な推進に関する事。
- (2) 全学教育プログラムに係る企画、立案及び実施に関する事。
- (3) 学部・研究科横断型教育プログラムの推進に関する事。
- (4) 専門教育及び大学院教育に係る理念、教育体制のあり方、連携その他諸課題に関する事。
- (5) 高等教育院の所管事業に係る各学部及び研究科との連携調整に関する事。
- (6) 学生に対する学修支援に関する事。
- (7) 情報通信技術を活用した教育支援に関する事。
- (8) その他機構が必要と認める事項。

(一部改正 平成30年達第37号)

(開設)

第3条 機構は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 理事（教育・市教育委員会連携）
- (2) 高等教育院長
- (3) 各研究科から選出された教授で、学長が任命する者
- (4) 事務局次長
- (5) 事務局教務企画室長
- (6) 学部事務室（山の畑事務室を含む。）の事務長
- (7) 医学・病院管理部教育研究課長
- (8) その他第4条に規定する機構長が必要と認めた者

(一部改正 平成30年達第37号、平成31年達第63号、令和2年達第81号)

(機構長)

第4条 機構に機構長を置き、理事（教育・市教育委員会連携）をもって充てる。

2 機構長は、理事長の命を受け、機構の業務を統括する。

(一部改正 平成30年達第37号、令和2年達第81号)

(副機構長)

第5条 機構に副機構長を置き、高等教育院長をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長が欠けたとき又は事故があるときは、その職務を代理する。

(一部改正 平成30年達第37号)

(任期等)

第6条 第3条第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に規定する委員に欠員が生じた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集及び議事)

第7条 機構の会議は、機構長がこれを招集し、機構長がその議長となる。

2 機構会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 機構会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 議長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 第2条各号（ただし、第5号及び第6号を除く）に掲げる事業に係る個別の事項を推進するため、機構に専門委員会を設置することができる。

2 前項の専門委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

(庶務)

第9条 機構の庶務は、事務局教務企画室において処理する。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、理事

長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 名古屋市立大学大学教育推進機構規程（平成 24 年公立大学法人名古屋市立大学達第 45 号）は、廃止する。
- 3 名古屋市立大学教育支援センター規程（平成 23 年公立大学法人名古屋市立大学達第 14 号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、発布の日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（平成 30 年公立大学法人名古屋市立大学達第 37 号）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年公立大学法人名古屋市立大学達第 63 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年公立大学法人名古屋市立大学達第 81 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。